



いまむら しこう
今村紫紅

みずく おんな・うしか おとこ
《水汲む女・牛飼う男》 1914年 彩色・紙 各137.0×33.2cm

大正時代はじめの日本では、インドといえば仏教の源であり、同じアジアというイメージが強くありました。ところが芸術上の転機を求めて実際にインドを訪れた作家は、インドの風物をいきいきとした異国として描きました。大正時代は桃山時代にならぶ華やかな色彩の時代であり、絢爛な色彩、自由奔放な作風は大正前半の時代そのものをつけています。伝統的な掛軸でインドの風俗を描いた斬新な発想はおおいに人々を驚かせました。

- 1880年 横浜に生まれる。
- 1897年 歴史画家・松本楓湖塾に入門。
- 1899年 日本美術院展覧会初入選。
- 1907年 安田靫彦とともに五浦（茨城県）の岡倉天心を訪問。
- 1911年 文展に《護花鈴》を出品。
- 1912年 文展に《近江八景》を出品。
- 1914年 インド旅行。帰国後、第1回再興院展に《熱国之巻》を出品。
- 1916年 東京都で没。享年 35。